

がん薬物療法(全般)



服薬情報提供書(大阪版)

処方医	科	先生	保険 局	名称	
患者ID				住所	
患者名				TEL	
				FAX	
患者同意	☐ 同意を得た。	☐ 同意は得ていないが、 治療上重要と考えるため報告します。	担当薬剤師		

確認日	年	月	日	対応者	☐ 本人	☐ 家族	☐ その他 ()
レジメン ・薬剤名				確認 方法	☐ 投薬時	☐ その他 ()	☐ テレフォンフォロー時
					☐ 患者からの問合せ時		

発熱 (37.5度以上)	☐	なし	☐	あり	呼吸困難、息切れ、空咳	☐	なし	☐	あり
感染症様症状 (喉の痛み、排尿時痛など)	☐	なし	☐	あり	重篤な出血 (消化管出血・血尿・咯血など)	☐	なし	☐	あり

受診勧奨の実施 ☐ なし ☐ あり → ☐ 上記症状のため ☐ Grade3以上のため ☐ 休薬が必要と思われたため

(※) 皮膚科・腫瘍内科コンセンサス会議 重症度評価

有害事象	【CTCAE v 5.0】	Grade1 (軽症※)	Grade2 (中等症※)	Grade3 (重症※)
下痢	☐ なし	☐ ベースラインと比べて4回/日の排便回数増加;ベースラインと比べて人工肛門からの排泄量が軽度増加	☐ 4-6回/日の排便回数増加;人工肛門からの排泄量の中等度増加;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 7回/日以上排便回数増加;入院を要する;人工肛門からの排泄量の高度増加;身の回りの日常生活動作の制限
便秘	☐ なし	☐ 不定期または間欠的な症状;便軟化薬/緩下剤/食事の工夫/浣腸を不定期に使用	☐ 緩下薬または浣腸の定期的な使用を要する持続的な症状;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 排便を要する頑固な便秘;身の回りの日常生活動作の制限
悪心	☐ なし	☐ 摂食習慣に影響のない食欲低下	☐ 顕著な体重減少、脱水または栄養失調を伴わない経口摂取量の減少	☐ カロリーや水分の経口摂取が不十分;経管栄養/TPN/入院を要する
嘔吐	☐ なし	☐ 治療を要さない	☐ 外来での静脈内栄養を要する;内科的治療を要する	☐ 経管栄養/TPN/入院を要する
食欲不振	☐ なし	☐ 摂食習慣の変化を伴わない食欲低下	☐ 顕著な体重減少や栄養失調を伴わない摂食量の変化;経口栄養剤による補充を要する	☐ 顕著な体重減少または栄養失調を伴う(例:カロリーや水分の経口摂取が不十分);静脈内輸液/経管栄養/TPN 要する
口腔粘膜炎	☐ なし	☐ 症状がない、または軽度の症状;治療を要さない	☐ 経口摂取に支障がない中等度の疼痛または潰瘍;経口栄養剤による補充を要する	☐ 高度の疼痛;経口摂取に支障がある
末梢神経障害 (末梢性ニューロパチー)	☐ なし	☐ 症状がない(臨床所見または検査所見のみ)	☐ 中等度の症状;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 高度の症状;身の回りの日常生活動作の制限
倦怠感	☐ なし	☐ だるさがある、または元気がない	☐ 身の回り以外の日常生活動作を制限するだるさがある、または元気がない状態	☐ 身の回りの日常生活動作を制限するだるさがある、または元気がない状態
高血圧 : 成人	☐ なし	☐ 収縮期血圧(sBP)120-139 mmHgまたは拡張期血圧(dBP)80-89 mmHg	☐ sBP140-159またはdBP90-99;内科的治療の変更;症状を伴うdBP>20の上昇;単剤の薬物治療を要する	☐ sBP≥160またはdBP≥100;2種類以上の薬物治療または以前よりも強い治療を要する
手足症候群 ^(※)	☐ なし	☐ 手掌、足底に違和感があり、発赤はないが、わずかに見られ、疼痛はなく、日常生活の作業に差し支えない	☐ 手掌、足底に発赤、水疱形成がみられ、疼痛を時に感じ、日常生活の差支、歩行に差し支えることがある	☐ 手掌、足底に発赤が著明で、大型の水疱がみられ、強い疼痛を常に感じ、日常生活の作業が行いづらく、歩行しづらい
ざ瘡様皮疹 ^(※)	☐ なし	☐ 顔面を中心に全体で20個前後の丘疹、膿疱を認める。疼痛、そう痒はない。日常生活は気にならない	☐ 顔面、躯幹に全体で50個前後の丘疹、膿疱を認める。疼痛、そう痒を時に感じ。症状について他人から指摘される	☐ 顔面、躯幹、四肢に全体で100個前後の丘疹、膿疱を認める。疼痛、そう痒を常に感じる。他人との面会が億劫である
	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐

疼痛(部位・NRS・コントロールの状況など)、症状の詳細、指導内容、提案事項、その他

病院記載欄	返信日	年	月	日
☐ 報告内容を確認しました。	病院名	医療法人徳洲会 松原徳洲会病院		
☐ 提案内容を医師へ伝えました。	薬剤師			
☐ その他 ()				

参考

【 1枚目のみ送信してください 】

味覚異常	☐ なし	☐ 食生活の変化を伴わない味覚変化	☐ 食生活の変化を伴う味覚変化(例：経口サプリメント);不快な味;味の消失	
皮膚乾燥 (※)	☐ なし	☐ わずかな乾燥と鱗屑がみられる。そう痒はないか、軽症	☐ 乾燥と鱗屑が明らかにみられる。そう痒は軽症か、中等症	☐ 乾燥が著明で鱗屑が多量にみられる。そう痒は中等症か、重症
そう痒 (※)	☐ なし	☐ 時にむずむずするが、掻くほどではない。掻かなくとも眠れる	☐ 時に手がゆき、人前でも掻く。痒くて目が覚めることがある	☐ かなり痒く、ほぼ常に掻いている。そう痒で眠れないことが多い
爪囲炎 (※)	☐ なし	☐ 軽度の発赤、腫脹がある。疼痛はなく、日常生活に差し支えない	☐ 発赤、腫脹がみられ、疼痛を時に感じ、日常生活の作業に差し支えることがある	☐ 発赤、腫脹が著明で、疼痛が常に強く、時に血管拡張性肉芽腫を生じ、日常生活の作業が行いづらく、歩行しづらい
皮疹 (斑状丘疹状皮疹)	☐ なし	☐ 症状の有無は問わない(例: そう痒, 熱感, ひきつれ);体表面積(BSA) <10%を占める斑状疹/丘疹	☐ 症状の有無問わない, BSA10-30%の斑状疹/丘疹;身の回り以外の日常生活動作の制限;BSA> 30%を占める皮疹	☐ 中等度/高度の症状を伴う, BSA> 30%を占める斑状疹/丘疹;身の回りの日常生活動作の制限
蕁麻疹	☐ なし	☐ 体表面積(BSA) <10%を占める蕁麻疹; 局所治療を要する	☐ BSA10-30%を占める蕁麻疹; 内服治療を要する	☐ BSAの> 30%を占める蕁麻疹; 静脈内投与による治療を要する
湿疹	☐ なし	☐ 症状がない, または軽度の症状; ベースラインを超える内科的治療の追加を要さない	☐ 中等度; 外用薬または内服治療を要する;ベースラインを超える内科的治療の追加を要する	☐ 重症または医学的に重大であるが, ただちに生命を脅かすものではない; 静脈内投与による治療を要する
浮腫 (全身性浮腫)	☐ なし	☐ 診察で明らか; 1+の圧痕浮腫	☐ 身の回り以外の日常生活動作に支障がある; 内服治療を要する	☐ 身の回りの日常生活動作に支障がある;静脈内投与による治療を要する; 皮膚の離開
疲労	☐ なし	☐ 休息により軽快する疲労	☐ 休息によって軽快しない疲労; 身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 休息によって軽快しない疲労で, 身の回りの日常生活動作の制限を要する